

記事を読んで、問いに答えましょう。

2020年7月10日朝刊 西部版

学校の伝統としてアカウミガメを飼育している御前崎市立御前崎

飼育ウミガメ放流

御前崎小



児童が見守る中、砂浜を歩きだす子ガメ（手前）＝御前崎市の下岬海岸

小の児童が9日、同市下岬海岸で子ガメ6頭を放流した。大海原へ一歩を踏み出した小さな命に、児童らは雨に打たれながら「頑張れ」と声援を送った。

アカウミガメは絶滅危惧種で、市の海岸の一部は国の天然記念物に指定されている。同校では1977年から飼育活動が始まった。例年9月ごろに市のウミガメ保護監視員から子ガメを預かり、「カメ当番」の5年生が世話をする。4月から飼育してきた現在の5年生36人は、新型コロナウイルスの影響により、学校の休校期間中も毎日学校に通い、餌やりや甲羅磨き、水槽の掃除などを行ってきた。

9日は6年生と4年生も参加。子ガメは何度も打ち寄せる波に押し戻されたり、藻が体に絡まったりしたが、その度に、育ての親の児童が手助け。ようやく引き波に乗って海に姿を消すと、安心して手を振って見送った。ごみ拾いも行った。

5年の松尾飛空（とあ）君（10）は「頑張った。飼育してきたので少

し悲しい気持ち。また戻ってきて卵を産んでくれればいいな」と願った。

- ①児童が放流したのは何というカメですか。
()
- ②児童は今まで「カメ当番」として、どんな世話をしてきましたか。
()
- ③子ガメを産んだ「産(生)みの親」に対して、世話をした児童のことを何と書いてありますか。
()
- ④見出しの口には、放流した子ガメにかけてあげたい言葉を入れようと思います。あなたなら、どんな言葉を入れませんか。記事を参考に、12字以内で書きましょう(句読点はつけません)。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

年 組 名前

